



「クラウドソーシング」を活用し、デザインを募集 「生駒の水PR事業」ロゴマークを決定

- 11 月 10 日「いこま魅力博」で初披露 -

生駒市水道事業では、「安全、おいしい、安い」水道水の良さを多くの方に知っていただくため、給水スポットや水飲み場の設置等による「水のPR事業」を平成 26 年から取り組んでいます。

このたび、「水のPR事業」が5年を経過し、より一層の事業の周知を図るため、ロゴマークを決定しました。ロゴマークの募集は、クラウドソーシングを活用しました。

今後は、ロゴマークのステッカーやのぼりを制作し、現在市内 23 店舗に協力を得て実施している給水スポット店や水飲み場での設置、水道事業ホームページやツイッター等の SNS での情報発信等のツールとして活用し、「水のPR事業」の普及啓発をしていきます。

■ 「水の水PR事業」新ロゴマーク



【デザインコンセプト】

いこまの頭文字である「い」をかたどり、本市の名産品の茶釜等の素材である「竹」、「水道水」、「繋がり」、「エコ」を表現したデザイン

■ ロゴマーク決定までの経緯

ロゴマークデザインをクラウドソーシングで募集した結果、2週間で49人、69件の応募があり、締切後、水道事業内若手職員による「水の水PR事業プロジェクトチーム」(※)で5案に絞りました。その後、ステッカーを貼付いただく市内給水スポット協力店23店舗すべての投票により決定しました。

(※)「水の水PR事業プロジェクトチーム」は、水の水PR事業を開始して5年が経過することから、今後の同事業の展開等を議論・実行するチームとして、今年度から若手職員で構成されたチーム。

■ いこま魅力博「利き水」ブースでロゴマークを初披露

11月10日(日)開催のいこま魅力博(高山サイエンスプラザ内、学研生駒・商工まつりブース)で、ロゴマークを初披露します。当日は、「水のPR事業」の一環で、水道水と市販のミネラルウォーターの飲み比べを行う「利き水」ブースを設け、利き水に用いるコースターやスタンド看板にロゴマークを活用します。



利き水用コースター



スタンド看板

□ 生駒の「水のPR事業」

水道水を身近に感じ、水道水のおよさ・安全安心・安価であることを再認識してもらい、より多くの市民の方に日常生活の中で水道水をもっと利活用してもらうことが目的です。これにより、ペットボトル等の容器入り飲料の利用削減を図り、CO2 やごみの削減、リサイクルに係る社会的なコストの削減等にもつながることから、平成26年から次の取組みを行っています。

- ① 「給水スポット」の設置(市内23店舗)
- ② 「水飲み場」の設置(市内公共施設6か所)
- ③ 給水器の貸出
- ④ 各種イベントでの利き水

また、今年の5月29日に開催された「水Do!ネットワーク」が主催する全国に給水スポットを広げる活動「Refill Japan(リフィル・ジャパン)」のキックオフイベントで、本市の水のPR事業が他の自治体にはない先進的な取組と高い評価を受け、全国の自治体で唯一、水道事業職員が取組発表を行いました。

【参考】

■ 水道水のイメージ

「利き水」イベント時の「アンケート結果（抜粋）」から

いこまどんどこまつり（約600人）	H30年度	R元年度
「利き水」体験前・後において、水道水を「おいしい、見直した」と回答された率	71%	79%

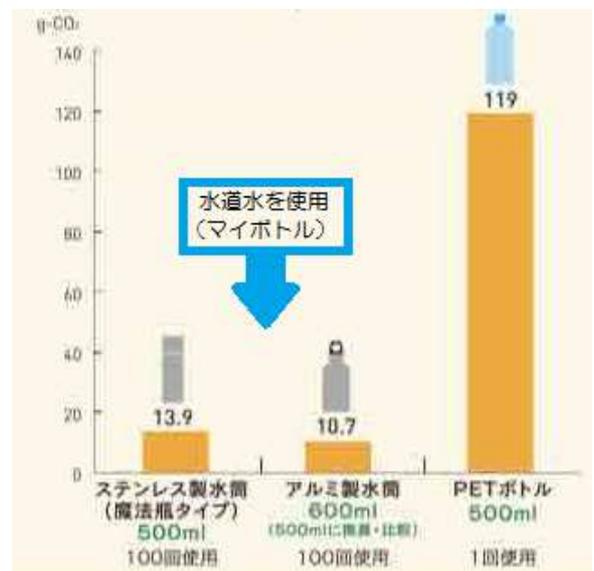
■ 水道水と市販ミネラルウォーターとの価格差

2ℓで水道水は約0.4円、市販ミネラルウォーターは約150円。その差は、149.6円。経済的にも水道水がお得です。

「利き水」イベント時の啓発パネル→

■ マイボトル（リユース可能な飲料容器）の使用に係る環境負荷分析について（環境省）

ペットボトル(500ml)の1回使用と水道水をマイボトル(ステンレス製水筒・アルミ製水筒)に入れて100回使用した際の二酸化炭素(Co2)排出量を比較すると、マイボトル使用の方が、環境負荷に対しては断然低い値となっています。



この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市上下水道部総務課（課長補佐 吉本） ☎0743-79-2800(内線 732)